

東高通信

令和3年度 9月号

今月号の内容

- ・9月の行事予定
- ・学年より

さあ、9月です。長月とも言いますが、これは夜長月の略という説が有力です。文字通り、秋の夜長を楽しむ季節です。楽しみ方をいろいろ考えてみてはいかがでしょう。

日	曜	学校行事等	学年・進路・生徒指導	生徒会・部活動関係
1	水			野球秋季地区(～2日)
2	木			
3	金			登山新人地区(安達太良山)
4	土			ハンド秋季県北選手権(～5日)、弓道市民体育祭 テニス新人地区(～6日)、サッカーF1リーグ(十六沼)
5	日			
6	月			
7	火		共通テスト出願指導 進路希望調査	
8	水			
9	木			
10	金		共催共通模試(3年、～11日)	卓球新人地区①
11	土			ソフトボール新人地区(女子、～12日)、サッカーF1リーグ(西部サッカー場)、弓道新人地区大会(～12日)
12	日			
13	月			
14	火			
15	水			
16	木			陸上県新人(～19日)
17	金		小論文模試(3年)	野球秋季県大会①(～20日)
18	土			全日本卓球県予選(いわき、～19日)、柔道新人地区(本校会場)、サッカーF1リーグ(西部サッカー場)
19	日		看護医療模試(3年)	
20	月	敬老の日		
21	火		推薦志願者全体指導	
22	水			
23	木	秋分の日		登山新人県大会(浅草岳～25日)、卓球新人地区②(～24日)、野球秋季県大会②(～26日)、サッカーF1リーグ(熱海フットボールセンター)
24	金	【45分授業】		
25	土		土曜学習会	県北高校駅伝、水泳新人県大会(～26日) 剣道新人地区大会(～26日、本校会場)
26	日			
27	月	中間考査①		
28	火	中間考査②		
29	水	中間考査③		
30	木	中間考査④	推薦志願者保護者会	

学年より

3学年

受験へ向けて不安な方へ

3年4組担任 重川 和儀

夏休みが終わり2学期を迎えました。夏休みはどのように過ごしたでしょうか。進路希望の実現に向けて為すべきことを着実にこなしただけの人、結局だらだら過ごしてしまった人、勉強を頑張ろうと思っていたけれどもオリンピックや甲子園に気をとられてできなかった人、様々だと思います。

この2学期は来年の入試に向けて特に不安な日々を送ることになるでしょう。

志望校に通るか落ちるかということが切実な話になってきます。親と進路の話をする中で、自分の将来に対する考えの甘さを実感し、不安が襲い掛かってくる人もいるでしょう。推薦入試が行われ、早々に合格を決めて大学入学後の準備を始めるクラスメイトも出てくる中で、自分の現在地に不安を感じる人もきっと出てくると思います。周りの友達が明確な進路希望を持ち、努力している姿を見て焦りを感じることもあると思います。先のことを考えるととても不安になります。

ただ、この不安に関して言うならば、みなさんは将来を変えることが必要になってきます。合格という結果に変えるのです。しかし、将来を変えるには今日一日の頑張りでしか変えられないことを知っておいてください。不安は絶対に現実を変えてくれません。目標を達成するために一番良いことは、「今日一日を頑張りきる」これが将来を変えるために最も必要なことです。将来は絶対に予測がつかません。ただし、将来は自分の都合がいいように変えることはできます。それは何かというと「今日一日を努力すること」です。したがって、皆さんには今日一日の勉強に没頭してほしいと思います。集中してください。合格する人の特徴は、間に合わせるという意識が強いことです。これから勉強を本格化させていくと、自分の知識の少なさ、そして弱点に気付き、不安で勉強に手が付かなくなることがあるかもしれません。それでは、合格はできません。わき目もふらずに間に合わせる。この気持ちが大切です。ところが逆の人、精神的に負けている人、間に合わないのではないかと自分で思ってしまう人、自分が勉強をやっているのに自分が間に合わないと思ったら間に合いません。「もう覚えきれない」「間に合うかなあ」という気持ちになった人は受験で戦う前に既に負けています。したがって、とにかく重要なことは自分の精神をコントロールすることです。今日一日を没頭することに集中すること。将来を自分の都合がいいように変えるにはそれをするだけです。不安を持つことは全く結果につながりません。寝る前や、ふとした瞬間にそんな気持ちがよぎることもあるかもしれません。それをどのように自分でコントロールして勉強に集中するかということを考えていきましょう。気持ちのコントロールが一番結果に影響を与えるということです。

さあ、2学期のはじまりです。

自分の思い描く理想の未来へ向けて、「充実した今日一日」を積み重ねましょう。



2学年

あと1年という時間

2年4組担任 羽田真幸

1年の延期を経て、賛否のある中開催された東京オリンピックでは、参加選手の活躍によってメダル獲得数が過去最高となり、コロナ禍の閉塞的な状況の中でも、見ている人たちに喜びや感動を与えたように感じる。オリンピック閉会式の翌日、家の荷物の整理をしていたところ、教員として採用された年(2008年北京オリンピックの年)のスケジュール帳が見つかりパラパラと懐かしく眺めていたところ、挟んでいた1枚のプリントが出てきた。

「子曰、学而不思則罔、思而不学則殆」というタイトルのWebページの記事だったが、何でこのようなものを挟んで残しておいたのか記憶になかったため内容を読み返した。「子曰～」の口語訳としては「学んで、その学びを自分の考えに落とさなければ、身につかない。また、自分で考えるだけで人から学ぼうとしなければ、考えが凝り固まってしまう危険である(?)」であり、この記事の筆者は「わかる」ということについては『理路整然とした言葉で鎖のように次々と話しができること』ではなく、『あることが瞬間的、直感的、総合的にそっくり自分の心に染みること』と述べていた。

その後、自分の考えに凝り固まることを独善的と表現し「年配者によく意見を求めてよく考えながら仕事をする謙虚な若者と、経験者に意見を聞こうとはしない自信家の若者がいて、若者同士で群れても思考は止揚せず、独善に陥るだけである」とも述べていた。

ここまで読み、教員になりたての自分に対する戒めとして自分自身で印刷したのか、はたまた生意気な態度に釘を刺すために先輩の先生からいただいたかは定かではないが「優位に立とうとして、持っている知識をひけらかしてマウントを取るような教員にはならないように」と自分の戒めになる内容であったので、13年経った今でも残っていたのだと思った。

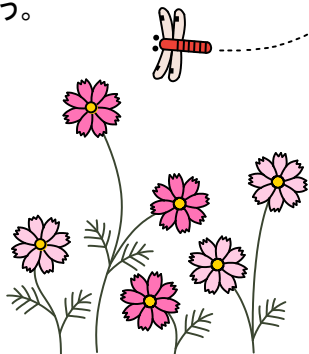
さて、オリンピックの1年の延期という異例のことが起きたにも関わらず、結果をみれば参加選手が大舞台で活躍できることを信じ、周りの理解や協力を得ながら諦めずにひたすら1年間努力を続けてきた成果がメダル数にも表れたのだと考える。

2年生の中には、入学からコロナ禍で思うような成果が現段階で得られていなくても、1年後には成果(学業なら現役合格、部活動なら東北・全国大会出場)を残したいと考えている人も多いはず。もちろんそう容易いことではないので、この1年間の過ごし方・時間の使い方が大切となってくる。

1年というのは、集中してもしなくてもあつという間に流れてしまう時間であるので、東京オリンピックの参加選手に習い、意味のある1年となるようにこの2学期から意識を高く、目標を明確にして学業そして部活に励んでほしいと思う。特に授業においては、単なる知識を言葉としてただ暗記・認識するのではなく、自分ごとに落とし込む意識で臨むこと、先生方の説明をよく聞いた上で吸収し自分の理解を深めるようにすることに努めてほしい。そして、進路を決めたり、学習に困ったりした際には、独善的になって勝手に物事を判断し進めるのではなく、担任の先生や周りの先生へ聞いて行動するようにしてほしい。

最後に、この1年は学年集会でも話したが【priority】(優先順位)をつけた行動を身に付けてほしい。

大学受験を「もう一年延期」はきっとツライかもしれないので現役合格を目指せるような意識の高い2学期になるように頑張ろう。



1学年

不合格体験記

1年4組担任 赤塚 玲

皆さんは『合格サプリ』という冊子は目を通したでしょうか。各教室、進路室の前などに置いてある、大学生が主体で作ったフリーペーパーのような冊子である。私は東高に来て初めて読んだのだが、興味深い内容が多かった。その中に、「合格体験記」ならぬ「不合格体験記」というコーナーがある。多くの高校で「合格体験記」は発行するが、「不合格体験記」というのは聞いたことがない。しかし、先人たちの失敗から学ぶことがたくさんあるに違いない。そこで、ここでは私大を志望していたある浪人生の不合格体験記を紹介しようと思う。

- ①色々な情報に「そういうものか」と流されすぎて、自分の頭で全然決めていなかった
親の言う「東京の私大がいい」という言葉を妄信していた。今思えば、人混みが嫌すぎてあまり向いていなかったかもしれない。(実際、入学後学祭に一度も行かなかった)
- ②「周りは国公立志望だけど、自分は私大だから」と決めつけて、学校の指導や助言を仰がなかった。自分から聞けばもっと先生たちも答えてくれたはずだし、国公立対策で頑張っていた子たちは私大も現役で私の第一志望に合格していた。独自路線は孤独な闘いだった。学校の指導にのってれば良かった。
- ③第一志望対策以外を、「無駄」と決めつけてしまった
すべりどめの受験、センター試験(現在の共通テスト)を受けること、どちらもとても大事なことだった。自分が受験する形式だけやればいいわけではない。センター対策で基礎を固めたり速く問題を解く練習ができた、すべりどめの受験で試験の雰囲気慣れていくことがとても重要だった。

なんとなくお気づきの人もいると思うが、私の不合格体験記である。16歳～18歳で何が無駄かを見極めるのは難しい。学校選びは、自分の頭で多角的に考えること。それに向けた対策は、先生に助言をもらい、学校でやっていることを信じてやり抜くこと。私のような失敗をする人が減るよう願っている。



10月の「東高通信」はありません。月行事予定は、ホームページ等で確認して下さい。

